

学校現場の課題解決を目指した活動の中から優れた取り組みを表彰する「第4回NITS大賞」で、高松市松並町の鶴尾小学校(田中義人校長)の活動「感染症対策時の子ども支援〜コロナ禍にコロナ繋がるお便り交換〜」が審査委員特別賞を受賞した。四国内の学校が賞を受けるのは初めて。

鶴尾小「お便り交換」受賞

NITS大賞は、教職員の研修に関する指導や援助などを行う独立行政法人教職員支援機構(NITS)が開催。毎年、教育現場を取り巻く課題の解決などに向けて学校全体で計画的・組織的に取り組み、課題を改善した実践活動を全国の小中高校などから募集している。

4回目となる昨年度は、全国から216点の応募があり、課題の重要性や先進性、獨創性など5つの観点を基に、優秀賞10点、審査委員特別賞6点を選んだ。

鶴尾小では昨年、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言で臨時休校が長期化したことを受け、児童と教員による「お便り交換」を実施。担任が手書きのメッセージや学習課題と一緒にはがきを各家庭に届け、児童がそのはがきに好きなものの絵を描いたり、頑張っていることを書いたりして担任宛てに郵送するというシ



お便り交換で、児童から担任宛てに届いたはがき

NITS特別賞 四国の学校で初 教員と児童、つながり評価



取り組みが評価を受け、受賞を喜ぶ鶴尾小の教員ら

ステムで、昨年4月中旬から週1回のペースで計3回やりとりを行い、児童一人一人の心のケアに努めた。

活動に必要なはがきは、地域住民の協力のほか、取り組みを知った市民らから多くの善意が寄せられ、計約3600枚が集まった。

審査では、はがきをパイプに地域とつながりを深め、全ての子どもの安心につながった▽今できることを考えて行動に移した▽返事が来ない児童との関係性もつなぎ、誰一人取り残さなかったなどと評価された。

田中校長は「家庭や地域の力強い応援をもらって、子どもたちと心をつなぐことができた。今後子どもに寄り添った教育について考えていきたい」と話している。